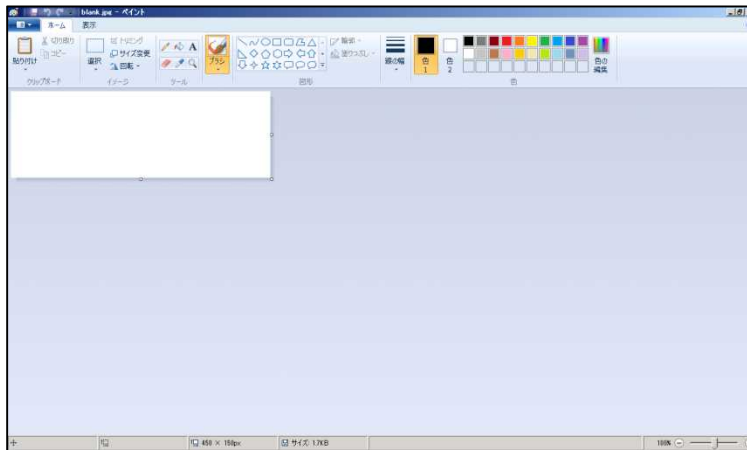
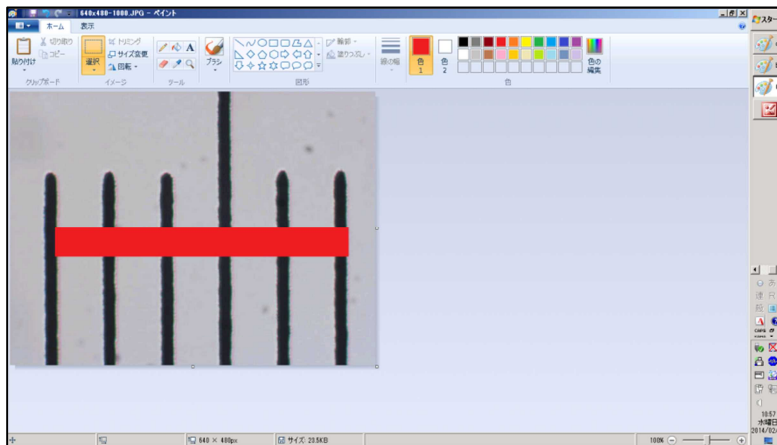


1. 準備

- (1) 撮影した写真のオーシスト大きくが入るサイズ（ピクセル）を調べ、高さがそのピクセル、幅が3倍のピクセルの、白のバックグラウンドの画像ファイルを作る。
この例では、クリプトのオーシストは150×150ピクセルに入るなので、150×450ピクセルの白い画像を作成。ジアルジアは倍の大きさ、すなわち300×900ピクセル。



- (2) 次に、実際にオーシストを撮影する倍率と同じ倍率で、マイクロメーターを作成し、それをペイントで読み込み、5 μ mの線を引く。



- (3) その線の部分だけを取り出して、サイズを記入し、スケール用ファイルとして保存する。使用時に、写真の明るさに応じて、黒塗りか白塗りにする。そのため、最初は画像と混じらない赤などの色にしておく。

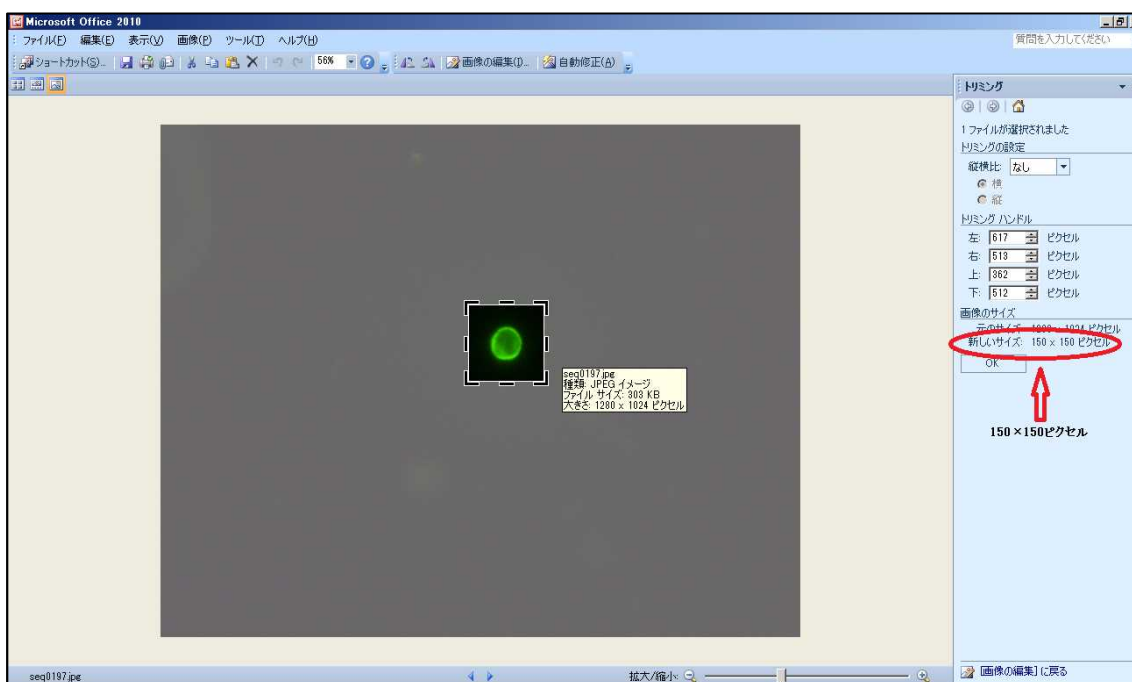


- (4) バックグラウンドのファイルとスケールのファイルをペイントで開き、このように、バックグラウンドの中に、スケールの画像をペーストして保存しておく、便利である。



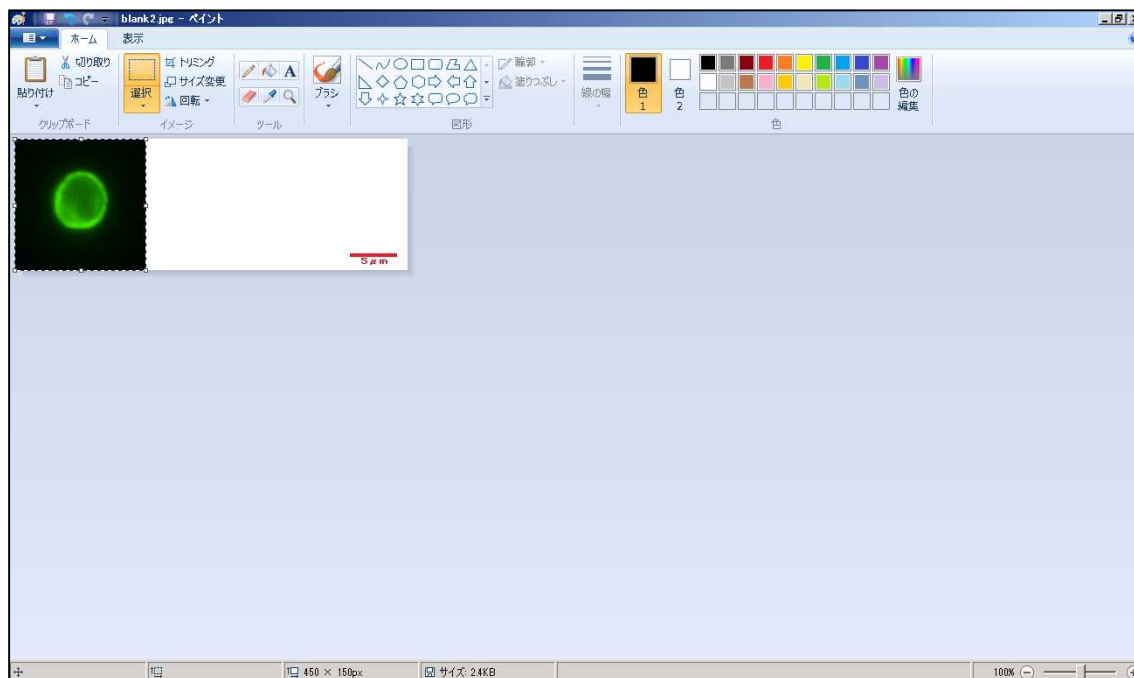
2, 画像の切り出しと貼り付け

- (1) 撮影した画像から、オーシストが大きく見えるように、画像を切り出す。この例では、Microsoft Office を用いて、クリップは、150×150ピクセル、(ジアルジアは300×300ピクセル) で切り出している。

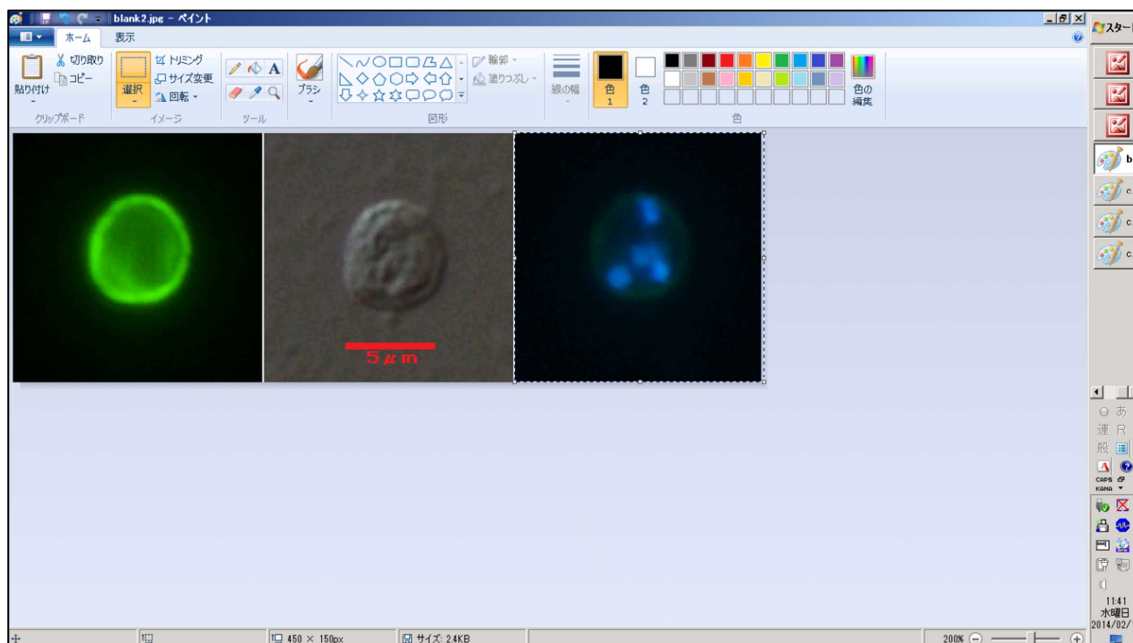


これを、FITC像、微分干渉像、DAPI像でおこない、それぞれ保存する。

- (2) ペイントでバックグラウンドのファイルと切り出したオーシストのファイルを開き、バックグラウンドの中に写真をペーストしていく。



- (3) 微分干渉像をペーストした段階で、右下のスケールを、微分干渉像の下に移動させる。さらに、DAPI 像をペーストする。



この場合は、写真のバックが暗いので、スケールを白で塗りつぶす。

(4) 画像に名前をつけて保存すれば、完成

